

コルホーズの経営強化と農業信用

澁谷 隆一

ソ同盟の農業は、一〇月社会主義革命後、著しい発展を遂げた。特にそれは、一九二九年から急速に展開された集団農業化、すなわちコルホーズ化を転機として顕著にあらわれる。この社会主義農業の急激な発展および強化は、大規模な社会主義工業の確立によつてのみ可能であつたのである。⁽¹⁾

国民経済の全部門の急激な発展の条件として、共産党とソヴェト政府は、重工業を発展させる方針を一貫してつてきた。その結果工業と農業との間に、ある程度の不均衡が生じてきた。一九五三年九月三日に開かれたソ同盟共産党中央委員会の総会において、この問題が特に大きくとり挙げられ、フルシチョフの報告「ソ同盟農業の一層の発展のための諸方策」においては、次のように指摘している。「社会主義農業発展のテンポは、工業発展のテンポと消費物資にたいする住民の要求の増加とに明瞭にたち後

れている。一九四〇年から一九五二年までに、工業生産高は二、三倍に増大しているのに、農業の生産高は（相対価格に換算して）全部で一〇％だけしか増大したにすぎない」。⁽²⁾農業部門のうちでもとくにたち後れた部門は、穀物生産、畜産、馬鈴薯および蔬菜部門であつた。⁽³⁾

重工業の発展の面で成功を収めた共産党とソヴェト政府は、一九五三年から五四年には、このたち後れた農業生産の全部門を急速に高める広汎な計画の履行にとりかかつたのである。当面する農業政策の課題について、フルシチョフは次のように強調している。「現在の段階での、最もさし迫つた、最も重要な国民経済上の任務は、今後とも全力を挙げて重工業を発展させながら農業の全部門を急激に高め、これと共にコルホーズ農民の全大衆が一層高い水準の物質生活を送れるようにすることにある」。⁽⁴⁾

本稿は、このような農業生産の高揚のため、かつコルホーズの経営強化のための新農業政策の一環として、農業信用が如何なる役割を果しているかをみようとするものである。

註(1) Политическая Экономика. (учебник) 1954. стр. 354

(2) Н. С. Хрущев, О мерах дальнейшего развития сельского хозяйства СССР. доклад на Пленуме ЦК КПСС 3 сентября 1953 года. (коммюнист 1953 No14 стр. 12)

(3) Политическая Экономика. стр. 480

(1)

社会主義における農業信用は、資本主義のそれとは本質的に異なっている。資本主義においてはすべての生産手段が私的所有となつてゐる。そこでの信用は、小生産者つまり農民、隸農、植民地住民にたいする飽くなき搾取の手段となつてゐる。(5) これは逆に社会主義では、土地を始めすべての生産手段が国有、或は協同組合的・コルホーズ的所有となつてゐる。そこでの信用は、搾取の手段ではなしに社会主義的拡大再生産の手段となつてゐるのである。すなわち「農業発展のための政策遂行におけるソヴェト財政・信用制度は、社会主義の経済法則に従い、社会主義農業の計画的指導の重要な手段として奉仕し、それに必要な貨幣手段を保障する大きな役割を演ずるのである」。(6)

革命後、農業信用制度は、農業生産の発展に照応して数度の改革を経てきたが、現在では、短期信用業務は国立銀行(Догобанк)、長期信用業務は農業銀行(Сельхозбанк)が担当してゐる。

コルホーズにたいする短期の農業信用は、種子、肥料、燃料、食糧集荷、その他の生産手段や建設資材の購入に必要な一時資金を与える。これは特に収穫年度の初めに大きな役割を果たす。(8) 長期の農業信用は、畜産、畜舎、飼料倉庫、その他建造物の建設、植

物栽培、電化・電信施設、土地改良と灌漑事業、鉱物性肥料など、基本的生産手段の建設および購入資金を与える。(9) 従つて長期信用は、生産的基礎の拡大を保障し、拡大再生産のテンポを促進し、短期間に大量の資本を投下する可能性をコルホーズに付与するのである。(10)

以上のことからコルホーズの経営強化のための農業信用の役割を問題とする場合短期信用を考察外におき、特に長期信用が問題となるのである。

コルホーズの経営強化に振り向けられた長期信用の具体的な検討をなす前に、予め長期信用計画は如何にたてられるか、貸付対象によつて貸付期間および貸付額比率はどうなつてゐるか、についておおまかに触れておこう。

コルホーズの長期信用計画は、まず農業の発展に関する国家的計画に基いてたてられ、そしてソ同盟政府によつて決定される。ロシア連邦共和国内での計画は、その共和国の内閣によつて、また州や地区内での計画は、地方ソヴェトの執行委員会で決定される。さらにコルホーズでの信用計画は、地方ソヴェトの執行委員会で、コルホーズの収支予算と同時に審議され、そして決定される。農業銀行は、このようにして決定された年間信用計画に基づきながら信用業務を遂行する。(11)

農業銀行の運用資金は、主に次の三つからなつてゐる。(12) (1) 計画

年度当初における銀行の遊資（法定資金の重要な形態）、（イ）貸付金の回収分、（ロ）資本投資勘定に振り込まれるコルホーズの不可分資金⁽¹³⁾、およびその他の資金などである。

長期信用の貸付部門は、政策の重要性に基いて決定されるが、その貸付期間および貸付最高比率は、それぞれの特殊性を考慮して決められる。第一表によれば貸付期間は、発電所建設と家畜購入とが特に長く、貸付最高比率では、土地改良、温室、温床、発

第 1 表

	貸 付 期 間	貸付最高比率	
		年	%
入 入	3~6	40~60	
入 入	3	60	
入 入	2	25~90	
建設 建設	10	70	
建設 建設		75	
建設 建設		45	
建設 建設		80	
建設 建設		90	
建設 建設		90	

畜舎・飼育場建設は、С. Носырев, Организационно-хозяйственное укрепление колхозов и сельскохозяйственный кредит. (Социалистическое сельское хозяйство. No. 5. 1954. стр. 70) その他は、В. В. Иконникова, Денежное обращение и кредит СССР. стр. 400 より作成。

電所などの建設事業が高くなっている。なお現在の貸付利息については知りえないが、参考までに一九三六年の利息改訂前後についてみれば、三六年以前は年四%、以後には三%に引き下げられている。このように貸付利息の極めて低いのが特長である。⁽¹⁴⁾

註(5) Т. Митович, Кредит сельскохозяйственный. (Ос-

лоскохозяйственная Энциклопедия Том 2 стр. 552)

(6) В. Даров, Роль финансово-кредитной системы в дальнейшем развитии сельского хозяйства СССР. (Вопросы экономики No. 10. 1954 стр. 15)

(7) 農業信用制度の改革は、農業生産の発展段階に照応して行われた。農業信用制度の大きな改革は次の二期に求めることができる。すなわち第一期は、一九二一年から開始された新経済政策に、第二期は、コルホーズ化の展開に照応している。

新経済政策の実施に当り、農業では、小農民経済を發展させながら漸次社会主義的大規模農業へ發展させるため、まず低次の協同組合の再建がなされた。一九二一年二月の第九回全露ソヴェト大会において「協同組合信用組織への広汎な支持」が決議され、それに従い人民委員會議は村における協同組合信用に關し翌二二年一月二十四日に法令を發布し、ここに信用協會 (Общество сельскохозяйственного кредита) および貸付・貯蓄組合 (ссу-

осуществительного и кредитного товарищества)が設立されるにいたつた。さらに、これら村落の信用協同組合に力と方向を与えるため、政府は、一九二二年二月二〇日付の法令によつて農業信用連合会の組織を命じた。また国民経済の各種部門にたいし特殊銀行を創設する新政策の採用によつて六つの共和国農業銀行(реpublicанские сельскохозяйственные банки)が組織された。なおまた全農業信用制度の頂点に立つ中央農業銀行(центральный сельскохозяйственный банк)は、一九二四年二月一日の第二回ソヴェト全聯邦大会で決定され、そして設立されるにいたつた。

当時の農業信用制度は次のような機能を担つていたと考えられる。(一)レーニンが指摘しているように「すべての社会組織は、一定階級の金融的援助の下でのみ生れる。《自由な》資本主義が生れるについて費された数億数十億ルーブルを思いだすまでもない。現在我々が普通のもの以上に支持しなければならぬ社会制度は、協同組合制度であることを、我々はいま認識し、これを行動に移さねばならぬ」(В. И. Ленин, Соч., 33, стр. 429)。農民による購買、販売組合の組織化を助け、中・貧農の生産上、生活上の困難を解決し、富農や高利貸とたたかい、農民の間の資本主義の自然発生的な力をおさえ、労働同盟を高めることにあつた。(二)国家の信用援助を中・

貧農に与え、富農との闘争、さらには撲滅のための経済的な一つの槓杆となることにあつた。「ソヴェト政府は、(a) 安価な農業信用を組織したり……農民に農具や農業機械を特別信用で与えたり、(b) 農業協同組合を支援したりなどして、農民の経営資本を補強することによつても農民に援助を与えることができるし、またそうすべきである」(Клисс в резолюциях, часть 1 стр. 788)。この機能を成功裡におし進める前提条件は、上部信用機関が国有であり、しかも株式の五一%以上を国家機関並に企業によつて保有し、富農による信用組織の支配を排除したことにあつたと思われる。

一九二七年から始められた第一次五カ年計画と、大規模な社会主義工業の急激な発展は同時に小農民経済の社会主義農業への改造を不可避免的に伴うものであつた。

「社会主義社会は、工業と農業との働き手の、生産・消費の共同体である。もしこの共同体のなかで工業が原料と食糧とを供給して工業製品を吸収する農業との調和を保つていなければ、従つてもし工業と農業とが全体として一つにまとまつた国民経済を構成していなければ、どんな社会主義もここから生れてこないであろう」(И. В. Сталин, Соч., Т. 7, стр. 200)。

農業の集団化は一九二九年から急速におし進められた。このような社会主義農業コルホーズの形成は同時

にこれに照応する農業信用制度の改革を不可避的に伴うものであった。それは次の如く三次にわたつて行われた。一九三〇年一月三〇日に信用改革法が生れ、中央農業銀行に代つて全聯邦コルホーズ銀行 (несколько сельскохозяйственный кооперативно-колхозный банк) が設立され、そして共和国農業銀行とその他中間的信用機関は、新銀行の支店として統合された。また農業信用組合連合会の合併が進み、大集団化以前には、一〇、三五八あつたのが、一九三〇年には三、〇〇〇に減少した(第一次改革)。次に一九三〇年十二月五日の法令によりソヴェト聯邦中央執行委員会および人民委員會議は、一九三一年一月一日を期してコルホーズ銀行とその分店の閉鎖と国立銀行への移管を命じ、その上農業協同組合信用連合会を解散せしめた。さらに一九三一年六月一二日付法令によつて、一九三〇年から三一年の間に信用の総ての部門に滲透していた欠陥を、農業信用から取除く目的で、長期的農業信用の貸付を管理する多くの規則を設けた。そこでの問題は、長期信用を国立銀行に移管することであつた。「政府は、多くの集団は、単なる資格上のものに過ぎず、彼らにはかかる形式の機関を単に管理局の努力から逃れる者として使用していることを察知し、政治上および経済上の理由から、農業協同組合および集団組織に金融上独立性を附与することは好ましくないと決定した。協同組合

▲海外ノート▼ コルホーズの経営強化と農業信用

協会および協同組合コルホーズ銀行を廃止し、コルホーズの資金にたいする統制を国立銀行に委託する方が遙かに安全であつた」(Author. Z. Arnold, Banks, Credit and Money in Soviet Russia. 1937 pp. 460—1) (第一次改革)。さらに一九三二年五月五日の法律によつて第三次農業信用制度の改革が行われた。これは国立銀行が、長期信用の管理に関する業務を適当に果していくことが困難であることから、社会主義融資銀行 (банк финансирования социалистического земледелия) が生れ、一九三二年八月二七日には、再び農業銀行の名称をもつていたつた。ここに現在の農業信用制度の土台が礎かれたのである。

この期の農業信用制度の機能は、社会主義農業コルホーズの組織的・経営的強化を側面から援助し、社会主義農業の全面的な発展を保証することにあつたと思われ

(8) В. Лавров, там же, стр. 25

(9) В. В. Иконникова, Денежное обращение и кредит СССР. 1954. стр. 399

(10) Там же. стр. 398

(11) Там же. стр. 398

(12) К. Н. Плотинова, Организация финансирования и кредитования колхозных хозяйств, 1954. стр. 356—7

(13) 「コルホーズの不可分資金は、銀行財源のうちで極めて重要な項目となつてゐる。その資金を構成するものは次の通りである。すなわちコルホーズの各メンバーの支払つた加入料、コルホーズの総収入のうちの一〇—一五%の積立金、余剰財産売却代金、保険賠償金、および各メンバーの自発的寄附金、これである」(Arthur. Z. Arnold, *ibid.*, p. 482)

(14) Arthur. Z. Arnold, *ibid.*, p. 483

(二)

第二次世界大戦後、ドイツ軍の占領下に莫大な損害を蒙つた農業の復興のために多額の資金が投下された。多額の国家予算はソフホーズ(Сопхоз)およびM・T・Cの復興に振り向けられ、M・T・Cのトラクター、その他の機械を装備し、またソフホーズの経営強化に当てられた。⁽¹⁵⁾

信用の多くの部分は、コルホーズの再建のために貸付けられた。すなわち第四次五カ年計画を通じてコルホーズは、七九億ルーブリ余の長期信用をうけた。このうち四三億、八〇〇万ルーブリは畜産の発展に、なおそのうち一三億二、四〇〇万ルーブリは畜舎の建設に貸付けられた。そしてこの長期信用によつて、九〇〇万頭以上の牛が購入された。コルホーズの資本支出のうち長

期信用の占める割合をみると、一九四六年六・四%、一九五〇年一七・五%、さらに一九五四年には二五・〇%に増大している。⁽¹⁶⁾ 農業銀行がコルホーズに対し組織的に支払つた貸付金の増加は、第二表により知ることができ。この表から明らかなようにコルホーズの受けた長期信用額は、一九四六年にたいし一九五〇年には、六倍強に増大している。しかし一九四六年から一九五〇年までに、僅かに一五億ルーブリしか利用されなかつたのである。この時期には、コルホーズへの融資を阻む本質的な欠陥があつたのである。その欠陥は次の点にあつた。すなわち「多くの州、地区、共和国には、共同経営を成功裡に発展させ、大規模な資本投資を実現させ、そして国家で定めた目的に従つて信用を利用することを許さないような規模の農場、すなわち夥しい数の零細なコルホーズがあつたからである」。⁽¹⁷⁾

しかし一九五〇年からコルホーズの統合が進められるにおよびその欠陥は排除された。一九五〇年一月一日には二五四、〇〇〇の零細なコルホーズがあつたが、一九五二年一〇月には九七、〇〇〇

第2表

年 度	信用貸付額 百万ルーブリ	増 加 比 率 1946=100%
1946	487.0	100.0
1947	614.1	126.2
1948	1.083.4	222.6
1949	2.700.3	554.4
1950	3.019.3	650.0

С. Носырев, Там же. стр. 69より、

となり、以前より大規模なコルホーズが生れた。⁽¹⁸⁾

コルホーズの拡大は、作業をより規則的に組織化し、集約的に農地を利用し、より生産的なトラクター、農業用機械、生産性の高い畜産を効果的に発展させ、また個別コルホーズ並に連合コルホーズによる発電所建設をも可能にしたのである。従つて、長期信用を利用する基礎条件を拡大し、より一層農業生産を高揚する可能性を生みだしたのである。

では拡大されたコルホーズにおいて如何に長期信用が利用されたかをみよう。

コルホーズの拡大は、特に共同畜産の広汎な発展の可能性を生みだした。拡大されたコルホーズでは、平均所属農場に二〇〇〇～三〇〇〇の牝牛、三、〇〇〇～五、〇〇〇の牝羊、二五～四〇の豚、二、〇〇〇～四、〇〇〇の家禽をもつにいたつた。このことは、長期信用を利用する上によりよい条件を生みだしたのである。第五次五カ年計画では、コルホーズにおける畜産の発展のため長期信用が著しく増大した。第三表によれば、一九五二年には一九五一年よりさらに増大している。しかし畜産の発展にたいする長期信用のうち家畜購入については、最近、家畜が例外なく増大しうる可能性をもつにいたつたため減少を示した。これにたいし畜舎の建設のための融資は著しく増大している。同時にそれは次のような信用供与の特権を伴っている。すなわち畜舎と機械化農場の

建設には、コルホーズの見積支出総額の七五％までの信用利用が許されている(第一表参照)。

一九五〇年から三カ年間に、コルホーズでは、一、〇三〇万頭を収容しうる牧場、八一〇万頭分の豚舎、六、二一〇万羽分の家禽舎、二、七〇万頭分の馬房を建設した。これは、牧場の三六％、豚舎の五三％、家禽舎の六六％、馬房の二一％の増加を示す。この建設に當つてコルホーズは、建設費の半分以上、すなわち六〇億ルーブリ以上を農業銀行の長期信用に仰いでいるのである。

以上のようなコルホーズの共同経営の発展にたいする長期信用のもつ大きな役割は、次の事例をみればより鮮明となる。

チェルニゴフ州(Черниговская область)のコルホーズでは一九五二年に畜舎の建設に二、七〇〇万ルーブリを支出したが、そのうち農業銀行から一、〇二〇万ルーブリ、すなわち約三八％に相当する額の貸付をうけている。キエフ(Киев)、デロビンスク地区(Дрогобишской район)、ポルタフ州(Полтавская область)におけるコルホーズの資本投資は、一九五二年に、二九六、〇〇〇

第3表

	1951年	1952年
	百万ルーブリ	百万ルーブリ
畜舎と機械化農場の建設	948.6	1,096.0
植物栽培に関する諸施策	194.4	216.7

С. Носырев, Там же. стр. 70 より

ループリであつたが、このうちには農業銀行の長期信用三九、三〇〇万ルーブリが含まれている。この投資によつて、一ホルホーズ当り生産性の高い牛が八九頭、山羊、豚なども増大し、その結果、コルホーズ員の貨幣所得および実物所得は著しく増大した。

ザポロジスク州 (Запорожская область) のコルホーズでは、一九五二年に二〇二の馬房、三三〇の乳牛舎と仔牛舎、一五九の豚舎、一二九の羊舎、三四のレンガ工場、四三の穀物倉庫、その他を建設し、また牛四九、四〇〇頭、山羊二四、四〇〇頭を購入し、さらに九二〇ヘクタールの果樹園と五四二ヘクタールの葡萄園を新たに開闢した。この実現のためコルホーズは、農業銀行の長期信用二、五二〇万ルーブリを受けた。ハリコフ州 (Харьковская область) のコルホーズでは、一九五二年に、五九の貯水池を掘り、これに二八〇万ルーブリを投資したが、そのうち長期信用は一七〇万ルーブリであつた。白ロシヤ共和国 (Белорусская ССР) のコルホーズでは、畜産の発展のため一九五二年には総額七、三〇〇万ルーブリの信用をうけ、そのうち畜舎と機械化畜産農場の建設、給水装置とに四、〇八〇万ルーブリ、牛の購入に二、九一〇万ルーブリ、牧草の種子に三二〇万ルーブリを向けた。ゴメリ州 (Гомельская область) のコルホーズでは、畜舎と困難な作業の機械化とに農業銀行から八二〇万ルーブリの信用をうけ、これで三三八の畜舎を建設した。また多くのコルホーズでは、機械化された搾乳

および飼料製造設備その他を完備した。コストユコピツチスク地区 (Костромской район) の「ワンモガ」コルホーズ、ペルイニチスク地区 (Пермичский район) の「チャパエフ」コルホーズ、モゼレフスク州 (Могилевская область) の「ブジョンスイ」コルホーズ、ヴァシレビチェスク地区 (Васильевский район)、ポレスク州 (Полеская область) およびその他のコルホーズでは、信用援助によつて火力および水力発電所をつくつた。ボリソフスク地区 (Борисовский район) の「チカロフ」コルホーズ、ホロベニチ地区 (Холопеничский район) の「レーニン」コルホーズでは、電信施設の建設に信用が利用された。また他の多くのコルホーズでは、農業銀行の長期信用によつて新たに果樹園を開設したり、拡大している。

一九五三年二月—三月、および九月に行われたソ同盟共産党中央委員会の決定に従い、以前よりさらに一層農業生産を高揚するため財政および信用による資本投資が著しく増大された。財政投資については、次のフルシチョフの報告によつても明らかである。「ソヴェト国家は、農業を一層高揚させるための緊急方策を実施するために、一九五三年には一五〇億ルーブリ以上、一九五四年には三五〇億ルーブリ以上を追加支出する。これらの支出のかなり大きな部分は、農業にいたする追加投資に当てられ、畜産の発展、馬鈴薯、蔬菜の生産の発展にたいするコルホーズと

ホルホーズ員の物質的関心を高めるのに当てられ、それによつて、すでに近々二、三年のうちにこれらの農業部門を大巾に前進させるようにする。このような諸方策を実施する結果、ホルホーズとホルホーズ員は、一九五三年には一三〇億ルーブリ以上、一九五四年には二〇〇億ルーブリ以上の追加収入をうけとることになるだろう⁽¹⁹⁾。

財政投資額の増加と共に、農業銀行の長期信用額もまた以前よりさらに増大された。長期信用総額は、一九四六年から五三年までに一六五億ルーブリであつたが、五四年には四一億ルーブリで、前年よりは四五・五%以上の増加となつた。⁽²⁰⁾ このうち畜舎と機械農場の建設に二億二、五〇〇万ルーブリ、植物栽培、土地改良、飼料性肥料の購入などに八億八、〇〇〇万ルーブリ、発電所建設に二億八、〇〇〇万ルーブリが当てられた(第二表参照)。そしてホルホーズの貨幣支出総額のうちに占める農業銀行の信用部分は、一九五〇年の一七・五%から五四年には二五・〇%となり、その額は、一九四〇年にたいし四・六倍となつた。

このように増大された長期信用によつて、一九五三年には、五、六〇〇の畜舎、二〇万頭の家畜、三、四八二平方メートルの温室、三六、五七五平方メートルの温床、七、三八四ヘクタールの果樹園が新たにできた。また同年には、ビドチョフスカ地区(Видюхский район)の「モロトフ」および「フルシチョフ」ホルホーズ、ブラス

ラフスク地区(Братский район)の「マラダーヤ・ゲバルディヤ」ホルホーズ、リトビヤ共和国(Литовской ССР)の「ミツケビツ」ホルホーズおよび「新生活」ホルホーズ、ラトヴィヤ共和国(Латвийской ССР)の「モトロフ」、「ツヴェルドロフ」および「カリニン」ホルホーズでは、ホルホーズの自己資金と二〇〇万ルーブリの長期信用とでホルホーズ連合の「人民の友好」水力発電所を建設した。ジロビンスク地区(Жирновский район)の「マレンコフ」ホルホーズでは、一三四、〇〇〇ルーブリの長期信用で、一九五三年にはレンガ造りの飼育舎、牛舎および家禽舎を建設したのである。

註(15) M・T・Cとソホーズは国营企業であるから、あらゆる資本必需品の購入は、国立銀行および農業銀行から交付の方法で融資される。ホルホーズは長期貸付の方法で融資される。

(16) С. Носирав, Организационно-хозяйственное укрепление колхозов и сельскохозяйственного кредита. (совхозное сельскохозяйственное хозяйство. No. 5. 1954 стр. 70)

(17) Там же. стр. 69

(18) Членов «Выбор» Советов исследователей 1954 г.

(19) Н. С. Хрущев, там же. стр. 17

(20) М. Яковлевский, Как мы кредитом помогаем колхозам. (Финансы и кредит СССР. No. 4. 1954. стр. 51)

(三)

以上のように、多額の長期信用がコルホーズの経営強化に向けられ、偉大な成果を挙げてきたことは明らかであるが、その反面長期信用についての多くの重要な欠陥がいまなお除去されていない。その欠陥は次の諸点にある。

まず第一に、長期信用がコルホーズの共同経営の発展に充分利用されていないことにあらわれている。この欠陥の基本的な原因は、所定の建設計画の未完遂にある。建設の遅延は、コルホーズ自身に欠陥があると共に、建設請負機関や建設資材を販売する商業機関の欠陥でもある。例えば、一九五二年に、スムスクおよびフメリニツク州(Омская и Хмельницкая области)のコルホーズでは、畜舎と煙草乾燥機の建設が資材不足からひきのばされた。またこの州における建設資材の運搬計画は、全体の七二・四％しか遂行されなかつたのである。グロドネン州(Гродненская область)の「ポリシェビキ」コルホーズでは、セメントや釘の代りに細引やヤスリを入手したのである。これと同様な事例は、テレホブスク地区(Тереховский район)、ゲメリスク州(Гемельская область)、クラスコポリスク地区(Краснопольский район)その他にもあらわれている。

次に、建設速度のテンボの増減に伴つて農業銀行の地方諸機関

第4表

1951年～1953年迄の 長期信用の不利用額	
百万ルーブリ	
白 日 共 和 国	124.8
ウズベク	81.6
カザック	116.7
アゼルバイジャン	43.2
ラトヴィヤ	35.2
アルメニヤ	36.5
カレロ・フィン	22.7
クールスク州	50.7
ボロネジスク	53.7
オルロフスク	57.2
ベリコルコスク	32.5
タムボフスク	37.5
ボロゴトスク	33.5
ブスコフスク	35.3
ブリヤンスク	29.8

が当然なざねばならない統制の欠如にみられる。すなわち農業銀行諸機関が、信用業務に従事している諸組織に、これらの欠陥のあることを察知せず、また遂行計画を混乱させている地方的な欠陥を除去しなかつたがためである。

一九五一年から五年までの長期信用の不利用額を第四表によつてみれば、かなりの額にのぼることがわかる。不利用額は、一九五一年四億五、二〇〇万ルーブリ、一九五二年八億六、三三〇万ルーブリとなつている。このうちの多くの部分は、畜舎の建設に予定されていたものであつた。⁽²¹⁾従つてこれらの対象部門の建設は、延期せざるをえなくなつた。かくて一九五二年における牛舎

の建設計画は、全計画の三分の二以下しか行われなかつたのである。この建設にたいし長期信用が不完全にしか利用されなかつた重要な原因は、コルホーズ、ソフホーズ、M・T・Cへの建設資材調達の不充分さにあつた。特に木材、レンガ、石灰および屋根瓦などの調達は不充分であつた。このことは、コルホーズおよびソフホーズの畜産或はその他の生産課題の遂行並びにM・T・Cの建設にブレイキとなつていたのである。この欠陥については、木材・製紙工業省、工業建設資材省、ソ同盟消費組合中央会、地方消費組合および工業協同組合などの指令や九月総会の決議にも反映されているところである。⁽²²⁾

更に、農村発電所にたいする長期信用の欠陥についてみよう。

農村電化が、社会主義農業の発展に大きな役割を果すことについて、レーニンは繰返し強調している。「もし我々が何十という地区発電所を建設したならば、そしてもしこれらの発電所から電力を一つ一つの村に送るならば、更に電動機やその他の機械を充分な量だけ手にいれるならば、そのときには、家父長的遺制から社会主義への過渡的諸段階、媒介的諸環は必要とされないか、或はまた殆ど必要とされないであらう」。⁽²³⁾ このことは九月総会においても改めて強調されている。「農業電化に伴う作業の増大は、農村発電所をもつことによつてコルホーズ、ソフホーズ、M・T・Cを工業エネルギー体系に結びつけ、さらに新しい農村発電所建設

をおし進め、電気エネルギーを充分に利用するときに実現されるのである」。⁽²⁴⁾

農村発電所建設にたいする長期信用は、コルホーズがこの建設に費した見積支出総額の七五%まで、農業銀行から貸付けられる(第一表参照)。この目的のために、五カ年間に五〇万ルーブリ以上が支払われた。しかし農村発電所の設置計画は、コルホーズで利用される重要な生産手段であるに拘わらず一九五一年には全計画の四二・六%、一九五二年には四六・二%という共に低い遂行率となつており、一九五三年にもこの計画は、不十分にしか遂行しえなかつたのである。その基本的な原因は、多くのトラストの極めて不満足な作業と、コルホーズが発電所建設を行う過程での電力統制および建設速度に従い地方諸機関がなさねばならない統制の欠如にあつた。そしてまた多くの州、地区、共和国での建設は、コルホーズが建設に要する必要労働量を常に配分していないことから遅延する傾向をもっている。

畜舎や農村発電所建設のほか、土地改良、果樹園や葡萄園の開設、農業用機械の購入などにたいする長期信用もまた不完全にしか利用されていないのである。

以上のような諸欠陥によつて、コルホーズの資本投資額のうちに占める長期信用額は、一九五一年から五三年までに、個々の州や共和国のなかには四〇%くらいのものであるとしてもソ同盟全

体の平均では僅かに二三・七％に過ぎないのである。

註(21) С. Хоменко, там же, стр. 71

(22) Там же, стр. 72

(23) В. И. Ленин, Сов., Т. 32. 1953, стр. 329

(24) ЕКОС в резолюциях, часть. 2. 1953, стр. 1186

(四)

長期信用利用の欠陥を如何に克服し、コルホーズの経営強化にこれを如何に寄与させるかが現在真剣に取り組まれている問題である。この問題に対するノスィレフその他諸論者の所説を要約すれば次の通りである。

第一に、コルホーズは、一定所得および不可分資金を計画的に除去しなければならないことである。というのは、多くのアルテリでは、いまだに収入・支出予算を完全に履行していないし、また投資のための自己資金を確保していないからである。

第二に、長期貸付金は、特殊目的の指定、収入・支出予算および信用計画とに基づいて支出されねばならないことである。というのは、若干のコルホーズでは、いまだに長期貸付金を不指定のものに使っているからである。一九五三年に、農業銀行は、特殊目的の利用状況について、六七、二〇〇のコルホーズを点検したが、その際五、三五八のコルホーズで二、七四〇万ルーブリの不指定利

用のあるのを摘発した。不可分資金及び長期信用の変則的な支出は、コルホーズの共同経営の発展を遅らせることになるのである。従つて農業銀行諸機関は、指定した貸付金のそれぞれの場合について、果してコルホーズの総会か或は理事会で充分に審議されているかどうかに注意する必要がある。このことは、農業生産の一層の高揚のためにも、コルホーズの将来の組織的な経営強化のためにもアルテリの投下資金が指定に基きしかも計画額のなかで利用されるようにすることである。

第三に、信用業務の諸欠陥を取り除くために、農業銀行のすべての業務組織を改善しなければならない。何となればコルホーズの著しい発展は、農業銀行諸機関の業務水準を不可避的に高めたからである。ソヴェト政府は、二月―三月および九月総会の決議に従い、農業銀行の幹部に、コルホーズの信用問題に関する重要な欠陥を除去し、重要政策の遂行にたいして長期信用を保障するよう義務づけたのである。

以上のことから、農業銀行のとるべき必要な措置は次の通りである。

(一)各コルホーズの信用計画は、その財政状態と信用需要を考慮して作成されるのであるが、もしも建設途上において信用給付の必要が起きた場合には、資金を潤渇せしめることなく、最上の信用利用を保障するため地方機関を経てコルホーズに貸付ける手段

を講じなければならないこと。

(四) 農業銀行の諸機関は、コルホーズの資本投資を信用をもつて不斷に保証し、資本投資のためにコルホーズに支払った正当なしかも特殊目的のための信用利用にたいし厳重な統制を行わねばならないこと。

(五) 一定貸付期間内にコルホーズと個人債務者の貸付金を回収しなければならないこと。ということは、この資金がコルホーズと個人債務者にとつて、将来の信用源となるからである。

(六) 銀行の投資による建設が、コルホーズの採算に見合い、貨幣資金を引きつけるにいたるまで、その建設課題の遂行を保証し、同時にコルホーズにたいし建設計画の実行を点検する業務を強化しはなければならないこと。これがために農業銀行の地方機関従業員は、コルホーズの正当な貸付金利用と商業機関の適宜な資材納入状況とを度々点検し、建設上ブレイキとなつている原因を摘発し、それを除去しなければならない。

(七) 農業銀行諸機関の業務にとつての大きな欠陥、すなわちコルホーズの建設上の失敗や長期信用の不完全利用などから悪い結果が生じた場合には有害な業務を一扫しなければならないこと。管理業務を行っている農業銀行の従業員は、諸欠陥を速かに処理し、共産党および政府にこれを持ちこむ以前に、適宜に指導し欠陥を早期に除去するよう努力しなければならない。

(八) 建設を成功裡に遂行するためコルホーズは、建設にたいして自己資金を適宜につぎこむと共に、建設状態に照応しコルホーズの自己資金との一定の関連を保ちながら農業銀行の長期信用を受けねばならない、ことである。